

丈夫な血管 長生きのもと

今回は下肢深部静脈血栓症についてお話しします。これはエコノミークラス症候群という名前でも呼ばれますが、旅行者だけではなく災害避難者にも多く見られる、との報道で有名になりました。

下肢深部静脈血栓症 ①

静脈には「深部」のほか「表在」があります。周りを筋肉に取り囲まれている場所にあるのが深部静脈で、皮下脂肪の中にあるのが表在静脈です。一般に静脈注

射ができるのは表在静脈です。

深部静脈は太く、周りの筋肉が収縮する力を利用して心臓へ血液を戻す重要な役割の血管です。この中に何らかのきつ

最悪の場合は急死も

けで血液の塊ができてしまった状態を深部静脈血栓症と呼びます。

普通では、静脈の中では血液は固まりません。そうなってしまうのは▽異常に血液が固まりやすい▽血管の中を動く血液の速度が遅い▽血管の内

壁に異常があるの三つの悪条件が関係していると言われています。

▽脱水などで血液が粘稠ちゆう（「粘り気があつて濃い状態」）になった▽ギブス固定などで筋肉が使えず血液を押し出す力がかからない▽酸素不足の血液しか来ないので血管の

内張りの細胞が壊れてしまった一などの状態がこれに当たります。

血栓ができる、血液が心臓に戻りにくくなり、血栓ができた場所より、主として心臓から遠い部分に、血液がたまって腫れます。このときには

刺すような痛みではなく、張った痛みが起きます。腫れや痛みだけを起

すだけではなく、血液の塊が血管の中を心臓まで移動して肺に行く血管に詰まると、肺塞栓そくせん血栓症となり、急死する場合があります。表在静脈で血液の塊ができて、命にかかわる状態になることはほとんどないと対照的です。

錦見 尚道先生
(にしきみ・なおみち)



名古屋生まれ。東海高校、名古屋大学医学部卒業。大学院終了後、米国留学。桐生厚生総合病院で研修中に血管外科を志望。名古屋第一赤十字病院血管外科部長。